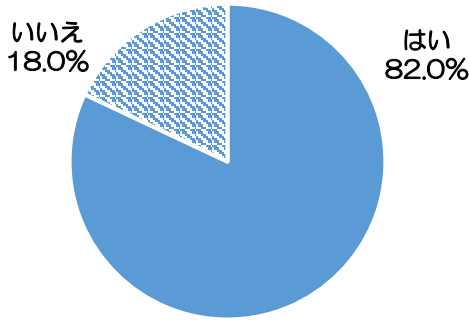


2016アンケート結果 (大倉山どろっぷ)

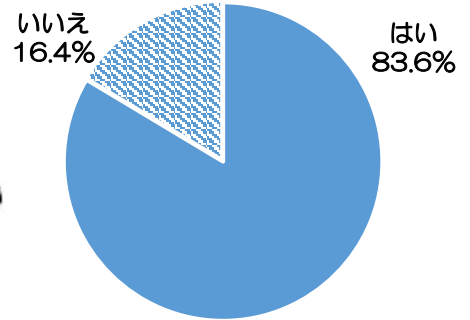
実施時期:2016年11月
回答数:128

利用者アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
皆さまからいただいた貴重なご意見は、今後の運営に活かしていけるよう、スタッフ、港北区役所、関係機関、そして利用される皆さんと一緒に考えていきます。
アンケートの全容は、ひろばの閲覧用ファイルをご覧ください。

Q どろっぷにいる時「手を貸してほしい」と周りにいる人をお願いできますか。



Q どろっぷにいる時周りにいる人が困っていたら「手伝おうか」と声をかけられますか。



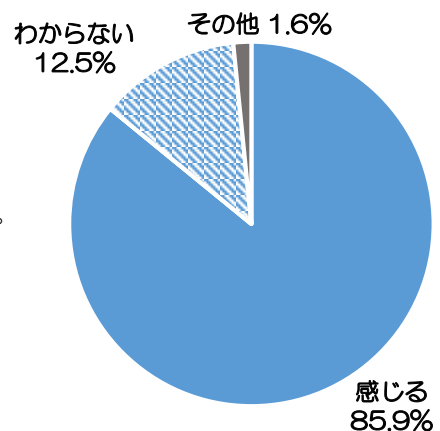
「手を貸してほしい」と思っている、「よほど仲良くないと遠慮してしまう」「スタッフには言える」「2人連れのお子さんをあやしているのは見かけるけれど、1人の場合は声をかけづらい」という声が挙がりました。さらに「手伝おうか」と声をかけられるけれど、「声をかけていいのか迷う時がある」「あまりそういう場面がない」という方もいました。「みんなで子育て」という言葉のとおり、大人同士でも、ちょっと困ったときに「手を貸してほしい」「手伝おうか？」と声をかけ合い「おたがいさま」という気持ちで支え合えたらいいなと思っています。

Q; どろっぷでは「子どもがまん中、みんなで子育て」という思いのもと、多くの人と出会いながら、ひろばを通じて、みんなの子どもをお互いに見守り合って行けるような関係を作っていきたいと考えています。あなたはどろっぷを利用してそれを感じますか。

どろっぷは、開所から12年の月日がたちました。ひろばに集う一人ひとりを大切に、育ちあい、支え合う場となっているのだろうか、みなさんと思いが共有できているかを、伺いました。その結果「子どもがまん中、みんなで子育て」を、85.9%の方に感じていただいていることを、本当にうれしく思っています。一方で、「時々感じる」という方や「ママ同士は初めて会う人が多かったりするとなかなか難しい」というご意見もありました。

どろっぷは、限られたスペースとおもちゃで過ごしていただくため、お子さん同士の関わりの中で、ときにはおもちゃを取ったり、取られるという事もあると思います。「今」を一生懸命に過ごしているこの時期だからこそ、子ども同士のやりとりを大切に、子どもたちの気持ちに寄り添っていききたいと思っています。

一方で、そういった場面に出くわすと、驚いたり、もどかしくなったり、切ない気持ちになったり、どうしていいかわからなくなることもあると思います。モヤモヤした気持ちをご自身だけで抱え込まずに、近くにいる方やスタッフにお話いただけたら嬉しいです。そばにいる人が、そばにいる人のことを思って、少し手を差し伸べたり、声をかけたりしてくださることが「みんなで子育て」、みんなで見守っていくことにつながっていくのだと思っています。

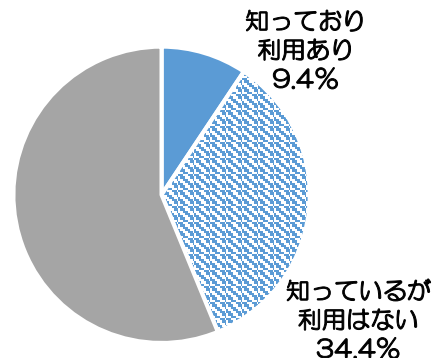


Q：「横浜子育てパートナー」を知っていますか？

横浜子育てパートナーは、2016年1月よりスタートした制度で、利用者の子育てに関する個別相談や、関連制度・施設等の円滑な利用を支援する専任スタッフがいます。

子育てパートナーへの相談は、来館での対面相談だけに限らず、電話でも可能です（TEL：045-547-1180）。また、臨床心理士による専門の相談もあります。どろっぶ/どろっぶサテライトでは、ひろばのスタッフでもお話を伺うことができます。子育て中の困ったことや不安を感じることがあった場合には、お気軽にご相談ください。

知らない
56.2%

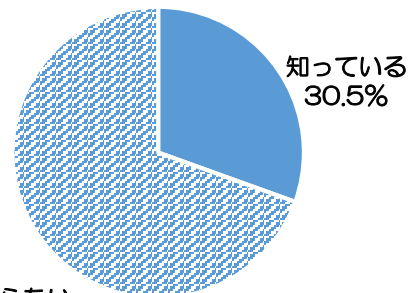


Q：ご意見箱や第三者委員会を設置していることを知っていますか？

ご意見箱は、コーヒーコーナーに向かって右脇の壁面に設置しています。スタッフに直接伝えにくいことがありましたら、ご意見箱をご利用ください。これまでも「片付け始めるのが早く、帰りを急かされているような気持ちになる」という意見をいただきました。そのような気持ちにさせてしまい、申し訳ありませんでした。翌日も気持ちよく過ごしていただきたいと思っているため、閉館前から少しづつ片付けをしています。ご理解いただけますよう、お願いいたします。片付けはしていますが、閉館時間までゆっくり過ごしていただければと思います。

第三者委員会とは、利用者の苦情申し立てに対して、客観的な立場で利用者配慮した適切な対応をするために設けられた制度です。どろっぶと利用者に対し公平・中立な立場にある第三者委員2名を設け、皆様からの声を十分に受け止められる体制の整備に努めています。お寄せいただいた相談や苦情に関しては、解決に努めて参ります。よりよい施設運営のために、ぜひお気軽に声をお寄せください。

知らない
69.5%



自由記述欄から～



おもちゃや安全ガードを点検してほしいです。

おもちゃの衛生面が気になる！

お昼ごはんを食べる時、知り合いがいない時寂しい感じがします・・・。

いすやテーブルの取り合い雰囲気があります。

お昼の時間ではない時の対処に困ります。

「安全ガードが適切に設置されているか」を含め、ひろばが安全に過ごせる場所かどうかというチェックを、定期的に行っています。重ねて、毎日の片付けの際に、気が付いた範囲で修繕をしていますが、行き届かない部分があるかと思えます。お気づきの点がありましたら、その都度お声がけ下さい。

また、プラスチックや木のおもちゃは毎日消毒しており、布のおもちゃやベッドカバーなどは曜日を決めて洗濯をしています。

どろっぶでは、お昼の時間を12:00～13:15と決めさせていただいています。いすやテーブルの数に限りがありますので、相席をするなどして、譲り合って使っていただけたらと思います。お昼以外の時間帯は、受付後ろにある白いテーブルと椅子をお使いください。ただし、アレルギーの方への配慮のために、「お菓子は館外で」とお願いしています。また食べこぼしの清掃も併せてお願いいたします。

スタッフが忙しそうで声がかけづらいです・・・。

「声がかけづらい」という思いをさせてしまい、申し訳ありません。作業をしていることが多いかもしれませんが、どうぞいつでも遠慮なく声をかけてください。お困りのことがありましたら、スタッフ以外でも周りの方にお声がけいただければと思います。

どろっぶでは、「こどもがまん中、みんなで子育て」を合言葉に、いろいろな方と共に歩んで参りました。このようなあたたかい場を作ってくださっている利用者の皆さまをはじめ、Sボランティア、親子ボランティア、学生ボランティア、サポーターの方々に心より感謝申し上げます。

「どろっぶだからこそできる遊びを思いっきりしてほしい」、「子どもたちの楽しい嬉しい哀しい悔しいという気持ちを一緒に分かち合いたい」、「この場にいるみんなで子どもたちを見守りたい」という思いで、スタッフ一同過ごしてきました。これからも皆さまのお力をお借りしながら、よりよい場を目指していきたいと思っていますので、どうぞ宜しくお願いいたします。

港区北地域子育て支援拠点どろっぶ

2016アンケート結果 (網島サテライト)

実施時期:2016年11月
回答数:112

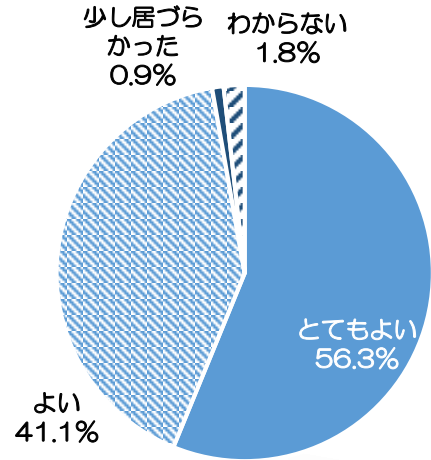
利用者アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。
開所以来初めて、皆さまの意見を伺うことができ、大変参考になりました。今後の運営に活かしていけるよう、スタッフ、港北区役所、関係機関、そして利用される皆さんと一緒に考えていきます。
アンケートの全容は、ひろばの閲覧用ファイルをご覧ください。

Q：どろっぴサテライトの居心地はいかがですか？

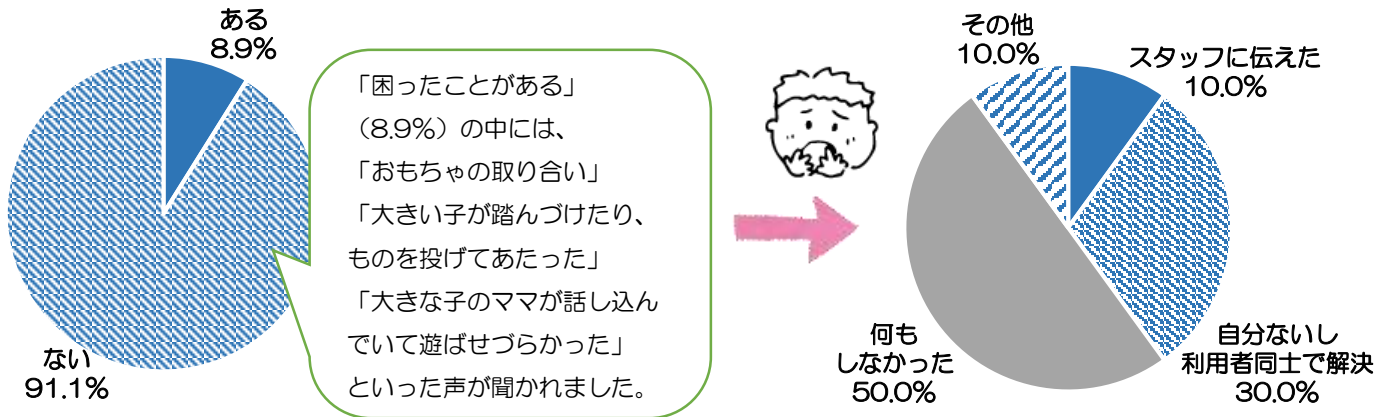
「とても良い」と回答した方が56.3%、「良い」と回答した方が41.1%と、9割を超える方に居心地が良いと感じていただいているようです。

「綺麗で広い空間で遊ばせられる」「うちにはないおもちゃで遊ばせられる」といった環境面だけではなく、「顔見知り居なくても来ているお母さんやスタッフと話せる」といったように、大人同士のつながりが理由として挙げられていました。

新しく利用される方が多いサテライト。「慣れるまでは時間ばかり気にしていた」「はじめは他のママと上手に話さないとと思った」といった声もあります。開所して間もないため、プログラムや講座はあまり実施せず、ひろばの中に安心して足を踏み入れていただくことを大切にしてきました。徐々にひろばに“サテライトらしさ”が出てきています。年末の「お楽しみWEEK」では、利用者の皆さんの力で子どもたちの笑顔を引き出す温かい時間を共有することができました。多くの方にとってサテライトが、より居心地の良い場所となるよう、今後とも皆さんと検討していきたいです。



Q：どろっぴサテライトにいるときに困ったことはありますか？

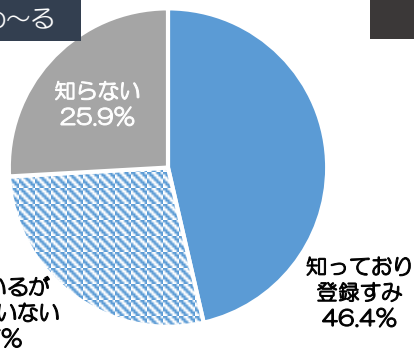


困ったことがあると回答した方の割合は、例年の大倉山どろっぴの結果(近年平均20%前後)と比較して少なめでした。困りごとの多くは“おもちゃの取り合い”など子ども同士のものが多いことから、サテライトは乳児の利用が多いため、子どもが小さいうちには困ったことが起きにくいのかもかもしれません。

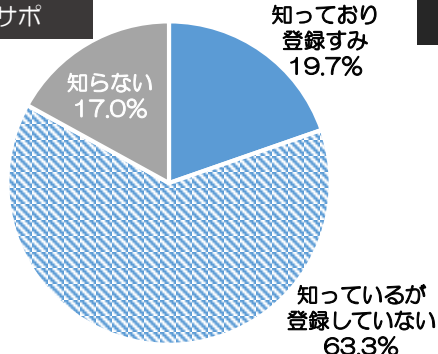
一方で、その時にどうしたかについては、「何もなかった」方が半数を占め、スタッフに伝える方が少ない印象です。ひろばの出来事で親として気になること、納得がいけないこともあるかと思います。その場では誰にも伝えられずモヤモヤした気持ちを持ち帰らないで、遠慮なくスタッフにお声がけください。帰宅した後も、話しておきたかったな・・・と思ったら、電話していただいても結構です。

Q；「ココめ〜る」「子育てサポートシステム」「横浜子育てパートナー」を知っていますか？

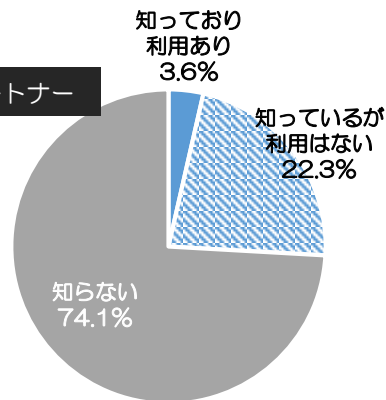
ココめ〜る



子サポ



パートナー



ココめ〜るは、港北区内を中心とした子育て情報のメールマガジンです。「知っているが登録していない（27.7%）」方や、「知らない（25.9%）」方は、まずは登録しておくことで役に立つ情報が得られるかと思えます。

子育てサポートシステムはお子さんの預かりサービスです。「知らない（17.0%）」と回答されている方もまだまだ多いため、今からでも気になっている方は説明会にご参加ください。

横浜子育てパートナーは、2016年1月よりスタートした、利用者の子育てに関する個別相談や、関連制度・施設等の円滑な利用を支援する専任スタッフです。現在は主に大倉山どろっぶに専任スタッフが配置されていることもあってか、存在自体を「知らない（74.1%）」方が多い結果となりました。子育てパートナーへの相談は、来館での対面相談だけに限らず、電話でも可能です。また、サテライトでは9月から臨床心理士による個別相談をスタートしています。子育ての中で困ったことや不安を感じる事があった場合には、どんな内容でも構いませんので、気軽にご相談ください。



自由記述欄から～



大きい子が赤ちゃんを踏みそうになったり、物を投げて子どもに当たったりした事がありました。部屋ごとに囲いをするなど、赤ちゃんの安全性を考慮してほしいです。

子どもは成長とともに様々なことに興味を持ち始めます。自分より小さな子にも関心があるため、いつもの調子で赤ちゃんのお部屋に遊びに行ってしまう。どろっぶでは、子どもを真ん中に、みんなで子育てする姿勢を大切にしています。「自分の子じゃないから関係ない」ということではなく、そこに入って来た子どもの気持ちを想像しながら、違う方に注意を向けてみたり、「気をつけようね」と声をかけてあげてみてください。子どもたちは、目を見て向き合ってくれる大人の話にじっくり耳を傾けます。

でも、自分の子どもが危ない目に合ったら・・・、そんな時は黙ってモヤモヤした気持ちを家に持ち帰らず、スタッフにお聞かせいただき、ひろばにその気持ちを置いていってくださーいね。

ピアノのある部屋の暑さについては、西日が差す午後にはスクリーンを下ろす、エアコンの温度を下げるなどの工夫をしていますが、それでも暑い場合には、遠慮なくスタッフにお声がけください。

おもちゃや絵本については、少しずつ増やしていくことを検討しています。「こんなおもちゃがあってほしい」「ひろばで使うおもちゃを手作りしたい」「子どもに読み聞かせる絵本をチョイスしたい」などご意見がありましたら、スタッフにお声がけください。

その他にも、ひろばを利用する中で改善したい点があれば、気軽にスタッフにお話してください。「言いにくいな」と感じるようであれば、ご意見箱を利用していただいても構いません。利用側だからこそ気づくひろばのより快適な環境があれば、どんなご意見でもお待ちしております。

ピアノがある部屋が、夏などとても暑くて、利用が辛いことがあります。

おもちゃの奪い合いが多いのでもう少し増やして欲しいです

今年3月に開所以来、1200組を超える親子に利用いただいています。生まれたてのサテライトは、ひろばに集う利用者、Sボランティアや学生ボランティア、地域の皆さんに支えられながら、一步一步着実に歩いてこられたことを、本当に感謝しています。

どろっぶが大切にしたい思い、それは「子どもが真ん中」を合言葉に、集う人皆でひろばを創り上げていくことです。皆さんが持っている力を貸してください。「こんなことやってみたいな」という思いを臆せず発信してください。私たちスタッフはそのパワーをひろばに還元していきたいと考えています。 港北区地域子育て支援拠点どろっぶサテライト